らいふ通信
ぷちらいふ
2008.秋
Vol.13
らいふホームページ　http://life.daikatsu-k.co.jp/
らいふ通信　http://green.ap.teacup.com/lifekaigo/
らいふ萩園
らいふ松林
らいふ神明

【特集】 看取り介護を考える

「暮らしの場で最期を迎える」

6月にお母さまを看取られた甲山さんは、介護保険制度にも一家言をお持ちの元ジャーナリスト。介護スタッフには父親のような厳しさを持って指導して頂きました。今回、インタビューというかたちでなく、直接寄稿していただきました。

らいふインタビュー
甲山方也さん

今年6月26日未明、母が老衰で旅立った。95才だった。

一昨年11月、小規模多機能の介護施設ができることをきき、早速手続きをして12月1日「らいふ松林」の開設と同時に入所。

初めの1年ぐらいは週2～3日の通所と月1～2回のショートステイといったローテーションを組んでいたが、昨年後半からは足腰も弱り完全な入所状態で、主治医の先生に持病の心臓、腎臓病の治療のため定期的な往診をお願いしていた。

故関米子様

今年に入って体力も弱って、いつ最終段階がきてもおかしくないと診断され、どのタイミングで自宅へ引き取ろうかと考えていた時、小室所長から「最後は施設で看取らせてほしい」との申し出があった。正直なところ耳を疑った。他の入所者の方々に迷惑をかけてはいけないと思ったからだ。

そして迎えた最後の日、職員の方達だけでなく入所者の方々一人一人が花を一輪つつ母の棺に手向けて見送ってくれた。一瞬、母が羨ましく思えた。

介護ビジネスといわれているが、介護は決してビジネスではない。人と人とのふれあいの美しさが表現された瞬間だった。あの一輪の花は生涯忘れることはできない。

主治医、施設、そして家族が三位一体となって取り組むことが、介護にとっては不可欠の条件であることを改めて考えさせられた母の最後でした。（甲山方也）

リビングにて皆さんで献花

茅ケ崎の道4

今まで3回は東西に走る道を紹介しましたので、今回は南北の道を紹介します。

①ラチェン通り

サザンの曲「ラチェン通りのシスター」でもおなじみです。昭和の初め、この通りに別荘を持っていたドイツ人の貿易商のラチェン氏にちなみ名づけられました。宇宙飛行士の土井さんはその遠縁に当たるそうで、一時住んでいたそうです。野口さんとともに、二人の宇宙飛行士が名誉市民に選ばれたのは記憶に新しいところです。この道を鉄砲通りを横切って海に向かって歩くと、行く手にエボシ岩が大きく見える、撮影スポットとしても有名なところがあります。134号線にぶつかる手前に、開高健記念館、茅ケ崎ゴルフ場、そして、かっては湘南のランドマークといわれたパシフィックホテルがありました。今はマンションと公園になっています。

開高健記念館

②雄三通り

駅前から134号線へ伸びるこの道の沿線に上原謙、加山雄三親子が住んでいました。地元のお年寄りは今でも、上原謙通りと呼ぶ人もいます。邸宅跡はマンションが建っています。

高砂緑地

③高砂通り

「たかすな」通りといいます。「たかざご」ではありません。この辺は海からの風が強く吹きつけ、高い砂丘のようになっており、その砂丘の上に東海道（国道1号線）ができたのです。地形からきた名前です。駅南口の出発点近くには、原別荘の跡が高砂緑地として整備され、図書館や美術館があり、市民の憩いの場所になっています。海のそばには、野球場やテニスコートがあり公園になっています。この野球場でサザンのコンサートが開かれてからもう、八年になります。そのサザンもデビュー30周年を期して、今年で活動を一時中止するのは残念です。

茅ケ崎館

④サザン通り

そのサザンの桑田少年が小・中学校に通った道が町興しと結びついて、サザン通りが生まれました。この道の歩道には青いペイントがしてありますので、道に迷ったときは、すぐわかります。沿線には前号で紹介した小津監映画督ゆかりの茅ケ崎館があります。明治時代からの建物で今でも色々なイベントが開かれています。

⑤左富士通り

南湖の西浜高校から一国の左富士のスッポトまでの道です。橋の上から見る左富士は江戸の広重の時代から変わっていないのでしょうか。道の両側に広がる浜見平の団地は、昭和39年、東京オリンピックのとき入居が始まりました。40年を過ぎて、今、北側から建て替えが始まっています。昭和の風景が又ひとつ消えつつあります。

●南北の道は、素敵な愛称のついた道が市内には、まだまだたさんありありますが割愛しして、次回は「茅ケ崎ガイド総集編」です。

編集後記

今回、らいふ松林の特集記事を紹介しましたが、寄稿して下さったご家族の甲山様、本当にありがとうございました。編集部の私は、以前通われていたデイサービス時代から関米子さんを知っていたこともあり特別な思いで寄稿を読ませていただきました。

今年も残すところ1ヶ月をきりました。編集部では毎号挿絵をお願いしている「光」さんの描かれた絵をまとめて、2009年のカレンダーを作成しました。若干でしたら差し上げることができますので編集部までお問い合わせください。（次号は1月新春号を発行しますので皆様の投稿をお待ちしています。）

らいふ萩園
デイサービス
居宅介護支援センター
〒253－0071茅ヶ崎市萩園2822-1
TEL0467-89-5277

らいふ松林
小規模多機能型居宅介護
〒253－0017茅ヶ崎市松林２-6-34
TEL0467-54-8591

らいふ神明
小規模多機能型居宅介護
グループホーム
〒251-0021藤沢市鵠沼神明２-12-17
TEL0466-21-7893

らいふ通信「ぷちらいふ」秋号Vol.13
2008年11月15日（季刊発行）
編集／ぷちらいふ編集部
神奈川県茅ヶ崎市萩園 2822-1
〒253-0071　TEL0467-55-5102
発行／大勝建設株式会社介護事業本部

ぷちらいふ らいふ通信

らいふで看取り介護をさせていただいた、関米子様の最後のご様子を、松林所長小室が報告いたします。

病気や障害があっても、住み慣れた家や地域で暮らし続けたい。

この気持ちをを支えるのが介護保険の精神です。そこから考え出される、安心して暮らしていける場所とはどのような場所でしょうか。

私たちは日常の中で当たり前の事として看取り介護が行われるところ、つまり暮らしの中で最期を迎えることが出来るところだと考えています。平成26年6月20日未明、関　米子様（享年95歳）が静かにゆっくりと息を引き取られました。場所は、小規模多機能型居宅介護らいふ松林　施設での看取り介護が半年間続いた後のことでした。米子さん（皆さんから米子さんと親しみを込めて呼ばれていました）とは平成18年12月の開設以来のお付き合い、皆さんからとても慕われた愛らしい性格の持ち主でした。平成19年12月に心不全が悪化され主治医からは終末期であることを告げられて、ご家族・主治医・施設の話し合いの中で看取り介護を施設で行うことが決められました。施設として是非米子さんの看取り介護をさせて欲しいとお願いしたところご家族の甲山さん（介護に対する先進的な考えをお持ちのすばらしい先生です）の全面的な支援のもと介護スタッフも安心して看取り介護に取り組めました。それから半年間、米子さんの人生最期の時間を一緒に過ごす誇りを胸に介護スタッフは様々なケアの取り組みを必死に行いました。

療の考えをお持ちのすばらしい先生です）のご理解を頂き、加えてライフクリニック　金先生（全人的医

いよいよその時が近づいた日の夜は介護スタッフ全員自然と次にやるべきことを理解し行動しました。明け方、亡くなられてすぐに金先生（24時間どんな時でも駆けつけてくれました）に死亡確認してもらい、女性介護スタッフが死後処置と最期のお化粧をさせてもらいました。通いの方々がそろった午前10時過ぎから、おひとりおひとり米子さんの眠る部屋へお別れを告げに訪問しました（皆さん当たり前のように快く訪問して頂きました）。午前11時　ホールで皆さんから米子さんに献花があり正面玄関から斎場へ出発されました。皆さんの「死」に対する厳粛な思いが伝わり、「死」は決して忌み嫌う事柄ではないことを深く学ばせて頂きました。

食事はゼリー・トロミ食□

訪問してお別れをして頂きました

献花で最期のお別れ

安心して暮らしていける場所とは、最期は正面玄関から見送りがされる場所であると思います。私たちの理念「心を添えて、ともに生きる」のもとそのような場所つくりを目指していきたいと思います。

光

Medical check 11 口腔ケア研修会

10月1日、らいふ萩園では「食べること」をとおしていつまでも元気にデイサービスへ来ていただきたいと、口腔ケアの研修会を開きました。講師には、高齢者や障害者施設へ積極的に入り、いつまでも口から食べられるよう実践されている村田歯科医院の院長・黒岩先生と、横須賀の高齢者施設で管理栄養士として従事している宮津さんに来ていただきました。

一杯の水を飲むにも、意識レベルや唇の周辺の筋肉、舌の運動など様々な機能を用いていることが具体的に理解できました。また、口からおいしく食べるには、食べられる口に改善する努力と、ゼリー状にしたりペースト状にしたり食形態をその人に合わせていかなければならないことなど学びました。

お二人は1週間ぐらい前に、北海道からみえた言語聴覚士の源間さんを連れてボランティアに来てくださったので、食事場面や口腔ケアの具体的な相談もできました。

らいふ萩園では、今後も継続的に黒岩先生や宮津さんにボランティアをお願いしながら、食事が摂れず脱水・低栄養になる恐れがある方のご相談をお受けすることにしました。

ご家族からも何か不安に感じていることがあれば、デイサービススタッフにご相談ください。

仕事を終えて、研修に集まったスタッフたち。

らいふ歳時記 event

秋のお出かけ コスモス畑

お客様のご家族も一緒に、平塚までコスモス畑を見に出かけてきました。

神明

萩園

らいふ萩園も10月25日平塚の馬入ふれあい公園にコスモスを摘みに出かけました。

敬老祭

今年もスタッフの二人羽織などさまざまな余興で盛り上がった敬老祭。百歳の仁多見さんを筆頭に、らいふ萩園の御長寿がくす玉を割ってくださいました。